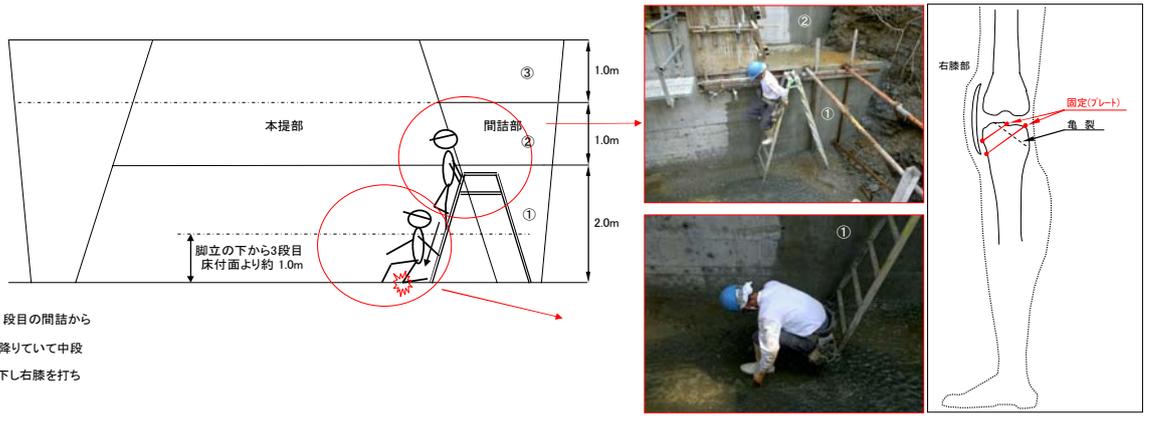
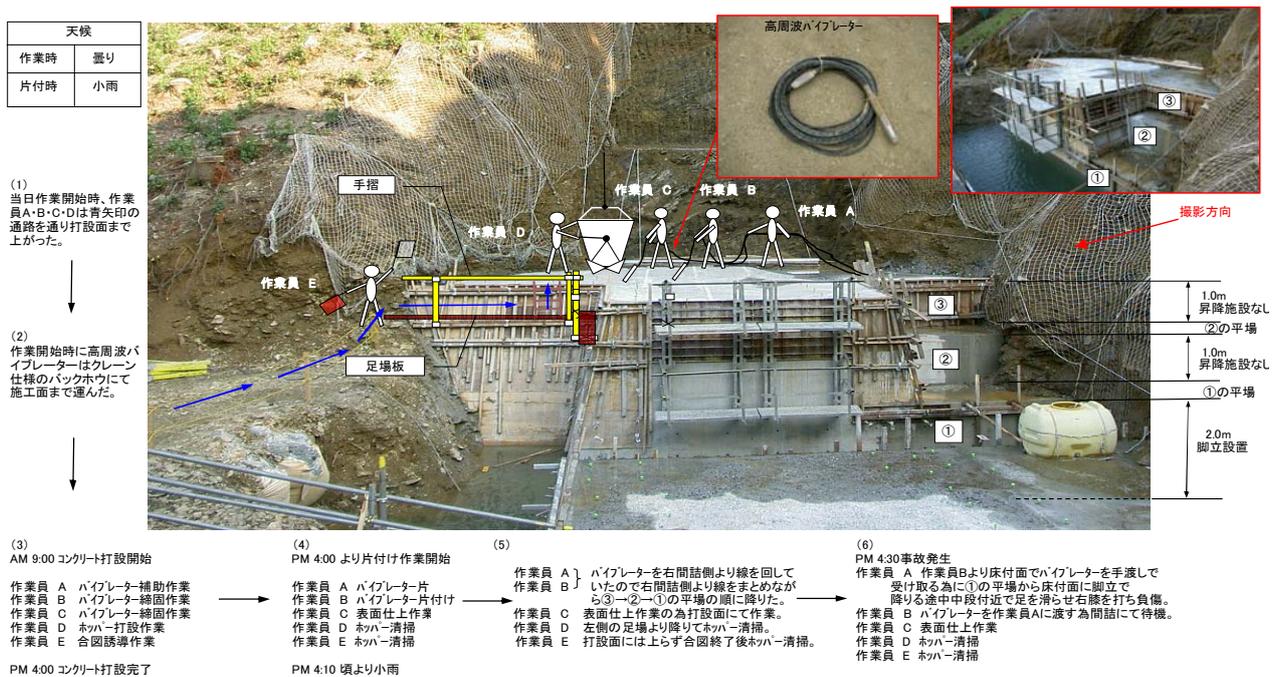


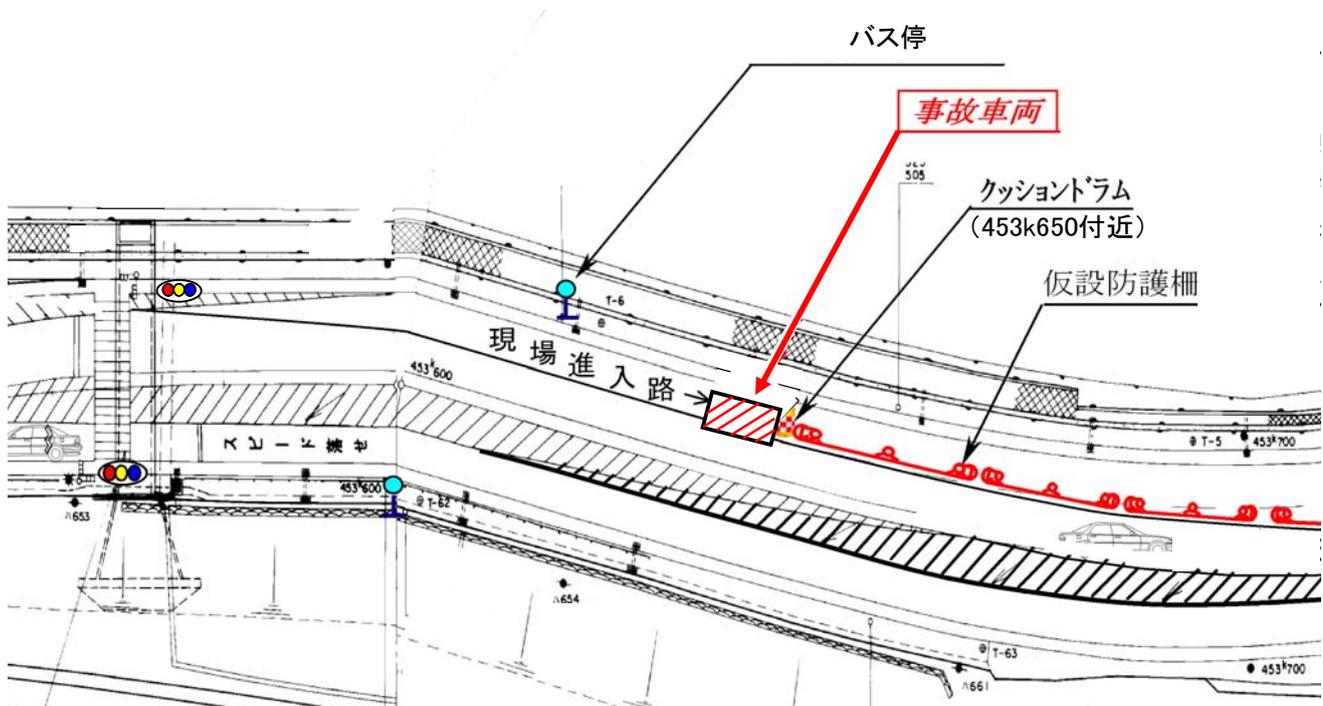
事故種類	労働災害	発生日時	平成21年10月1日 16時30分		
事故区分	労働災害	年齢性別	57歳 男性	職種	一般土工
被災程度(全治)	軽傷(約2ヶ月間の加療を要する見込み)				
事故概要	堰堤本体のコンクリート打設作業が終わり、ハイレータを受け取るため脚立を利用して床付け面に降りようとしていたとき、下から3段目付近で足を滑らせて、床付け面で右膝を打ち負傷した。				
29 事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> 昇降手段として脚立の使用が現場に適していなかった。 脚立を降りるときに、脚立に背を向けて降りた。 降雨により足下が滑りやすくなっていたにもかかわらず、足下の確認を怠って脚立を降りた。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> 脚立を撤去し、手摺り付き昇降階段を設置する。 安全教育訓練時に、予想される災害についての対策を現地にて確認、徹底する。 日々の安全巡視回数を2回に増やし、店社パトロールの点検者人数を増員してパトロールする。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> 作業用通路の確保。 施工現場条件に適した昇降設備の設置。 				

事故状況図



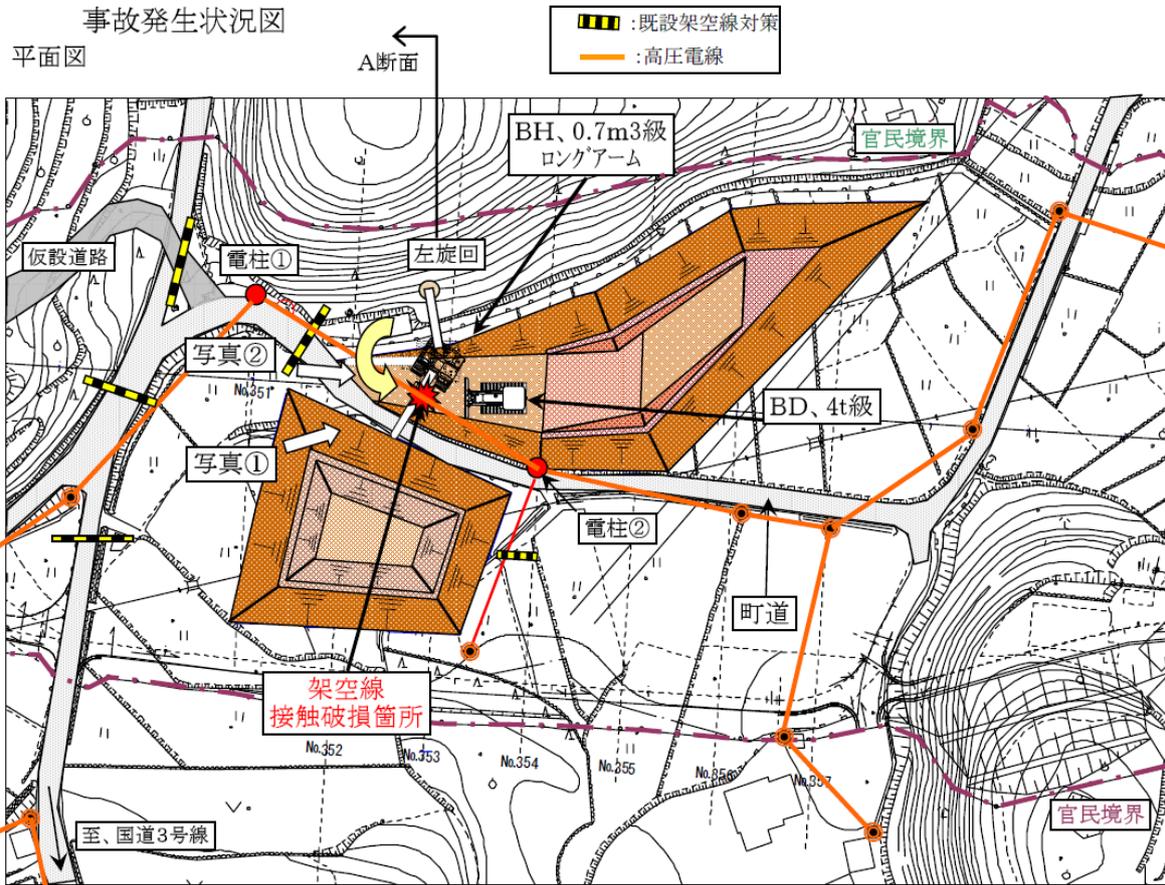
事故種類	交通事故	発生日時	平成21年10月8日 0時40分		
事故区分	公衆災害	年齢性別	48歳 男性	職種	第三者
被災程度(全治)	頭部挫傷、胸部打撲、両膝打撲(約1週間の加療を要する見込み)				
事故概要	走行中の一般車両(普通乗用車)が工事現場出入口に設置していたクッションドラム及び仮設防護柵に接触し運転手が負傷した。				
30 事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に強い台風18号が接近することを受け、台風時の第三者被害を考慮し、必要最低限の安全施設を残して看板等の撤去を行った。 ・一般車両の工事区域への進入防止のための施設が設置されていなかった。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・台風、強風時において、平常時の安全施設を撤去・縮小する場合は、代替措置として工事区域への侵入防止のため誘導矢印付きクッションドラムを複数設置するなどの対応を行う。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時においても利用者の安全を確保するための施設の設置。 				

事故状況図



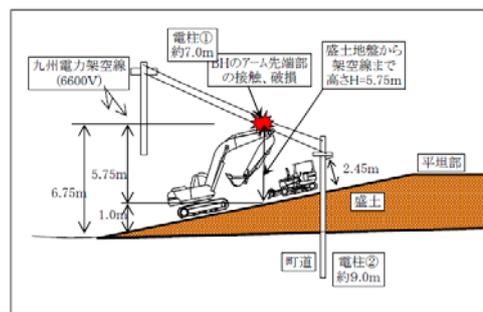
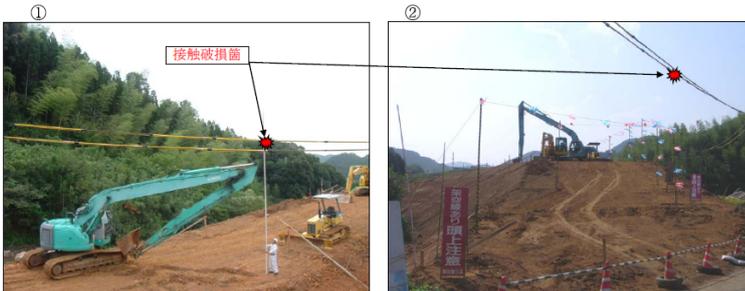
事故種類	一般事故	発生日時	平成21年10月8日	15時54分	
事故区分	公衆災害	年齢性別	-	職種	-
被災程度(全治)	九電の送電線切断 停電時間:最大2分間(2557戸)				
事故概要	BH0.7m3級(ロングアーム)の本作業が終わり片付け作業のためアームをたたんだ後、旋回時に架空線(6,600V)に接触切断した。				
事故原因等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前の架空線調査不足(H=6.5m以下(タンク)荷下ろし時H=6.2m)と工事進捗による現場の変化への対策、及び九州電力との現場立会を行っていなかった。 2. 架空線の保護カバー及び、当該地点に架空線の注意喚起看板等の表示がされていなかった。 3. 施工計画に架空線等上空施設への接触・切断事故防止対策及び建設機械記載(ロングブームバックホウの追加)が不足していた。 4. オペレーターは架空線を認識していたが、旋回軌道上のブルトーザに気を取られ架空線に接触した。KY活動では注意喚起を行っていたが、実作業に生かされていなかった。 				
改善策等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工事影響範囲内の全ての架空線配置を工事現場の変化も考慮にいれて再度調査し、架空線配置平面図を作成する。 2. 建設機械の影響範囲すべてに防護カバーを設置。注意喚起看板を要所に増設。 3. 使用予定の建設機械での接触・切断の可能性を検討し、その対応方法及び点検・教育の実施方法まで周知する。 4. 重機の稼働時には、誘導員を配置する。指差呼称を実施し、安全性を確認する。また、KY活動のマナー化防止のため、リーダーを当番制にし、安全意識の向上を図る。作業休憩後の開始時に互いに「架空線!」と声をかけあう。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・移設が必要な電柱については、工事着手前に移設を行う。 ・盛り土などにより現場状況が変化していく場合には、工事の進捗により現場確認を行いつつ、状況に応じた適切な対策を実施する。 				

事故状況図



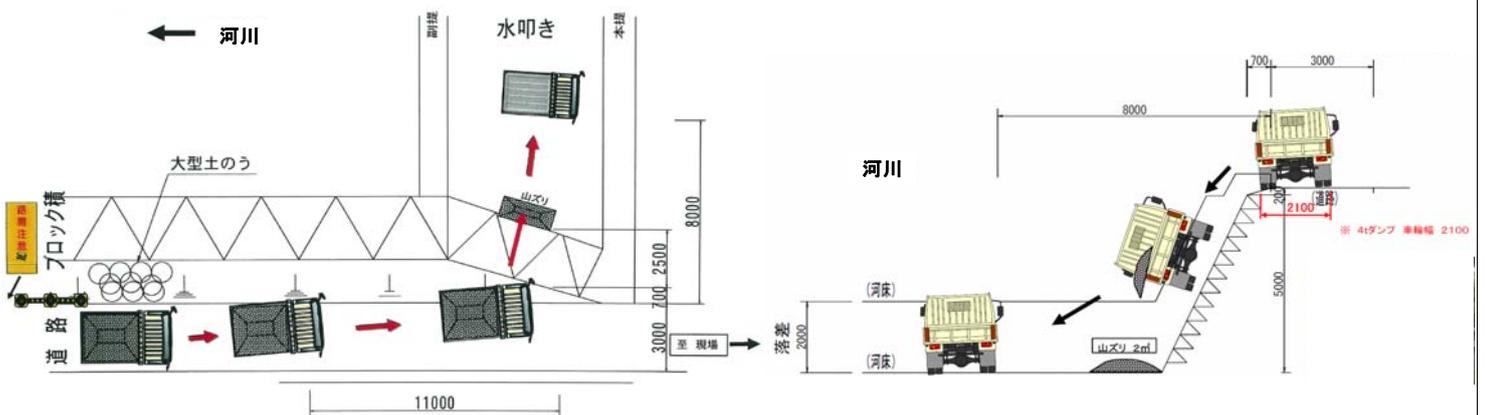
切断箇所側面図

架空線接触破損箇所写真



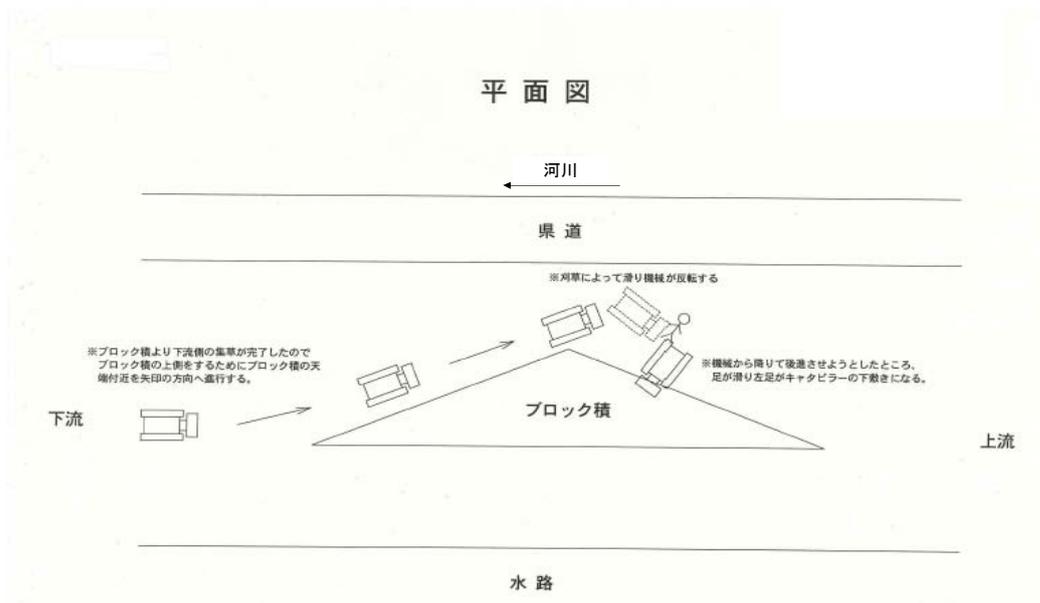
事故種類	交通事故	発生日時	平成21年10月9日 15時35分		
事故区分	労働災害	年齢性別	34歳 男性	職種	ダンプトラック運転手
被災程度(全治)	全治3ヶ月(入院期間2~3ヶ月の見込み)				
事故概要	仮設道路に使用する山ズリを4tトラックで河川管理用通路を使用して搬入していたところ、工事起点より約100m手前で道路より脱輪し5m下の河川に転落した。				
32 事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ・考え事による漫然運転により路肩に寄りすぎてしまった。 ・幅員が3m未満の箇所については、路肩注意等の看板設置、杭・ロープ等による表示は行っていたが、3m以上ある箇所については明示がなされていなかった。 				
改善策等	<p>危険が予測される箇所では下記の対応を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意看板(路肩注意・徐行・最徐行・×わき見・×携帯)、路肩表示のロープ等を増やし、更なる注意喚起を促す。 ・工専用道路を拡幅できる箇所については、敷砂利、生コンの打設を行う。段差、わだちについても同様に行う。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・安全運転に関する教育の徹底。 				

事故状況図



事故種類	労働災害	発生日時	平成21年10月21日 11時20分		
事故区分	労働災害	年齢性別	50歳 男性	職種	除草機オペレーター
被災程度(全治)	股関節脱臼 (全治28日)				
事故概要	ハンドガイドによりブロック積みの上を集草作業を行おうと機械を移動させていた所、法面で滑り反転し、集草機のアタッチメントがブロック積みを越えて停止した。このままでは、集草機がブロックから落下する恐れがあるので機械から降りて徐々に後進させようとしたところ、オペレーターの左足が刈り草で滑り左足が集草機の右側のキャタピラーの下敷きになった。				
33 事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ・作業指示書を無視して、構造物付近を集草機で集草作業を行った。 ・ブロック積みを危険箇所と認識していたにもかかわらず、集草機の運転を行おうとした。 ・刈り草の上を走行させたため、集草機が滑った。 ・一人で作業を行ったため、集草機が転落しそうな時に、現場代理人もしくは作業員に助けを求めることが出来なかった。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の作業終了後新たに危険箇所を発見した場合、危険箇所位置図を見直す。 ・当日の作業前に現場代理人及び作業員が施工範囲の危険箇所を危険箇所位置図により現地にて確認する。危険箇所には目印としてポールを上下流に設置する。 ・作業は1人で行わないような体制をとる。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	河川部にて検討中(注意喚起文書を出す予定)				

事故状況図

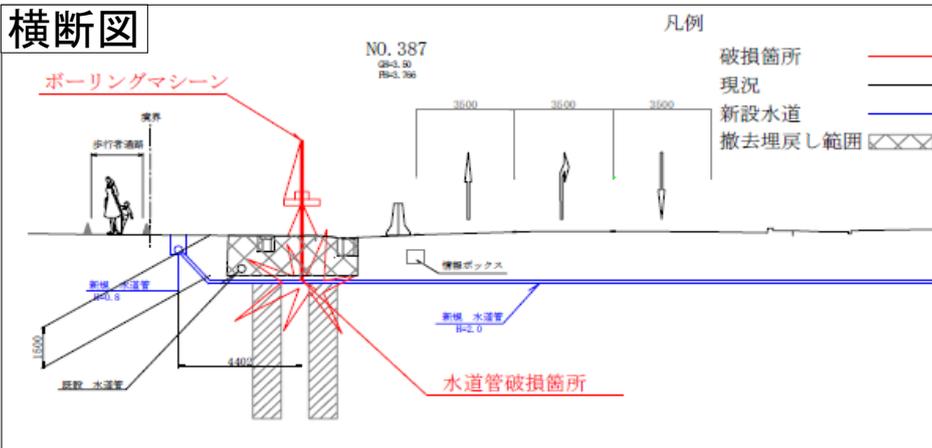
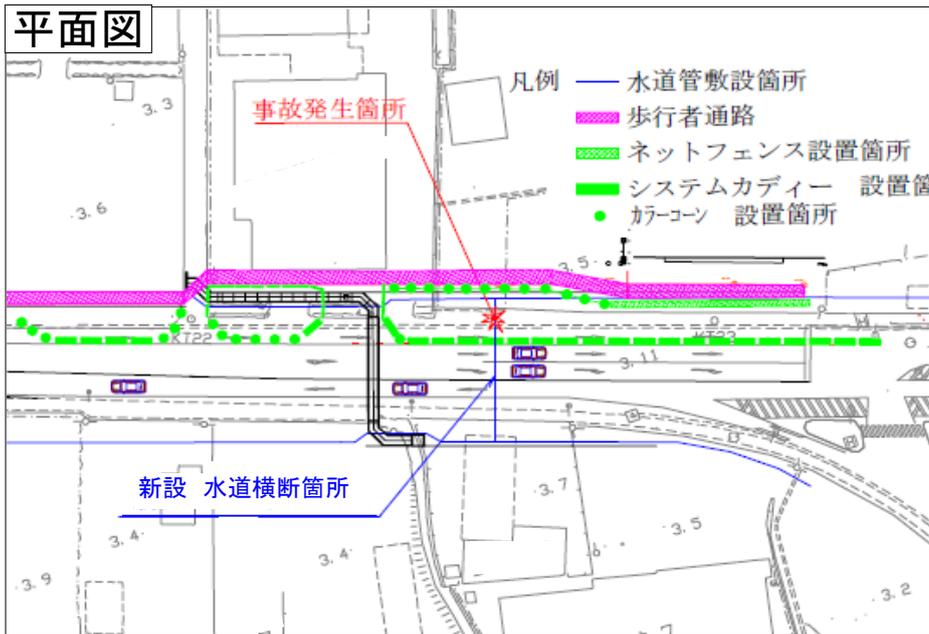


事故状況詳細説明資料



事故種類	一般事故	発生日時	平成21年10月23日 11時10分		
事故区分	公衆災害	年齢性別	-	職種	-
被災程度(全治)	水道管破損(断水による一般世帯への被害なし)				
事故概要	地盤改良工事(深層混合処理)を行うための事前調査(試料採取ボーリング)の際、地下約2mに位置するφ100の水道管を破損した。一般世帯への水の供給は国道縦断方向に設置している幹線管が主であり、今回破損した国道横断管(断水時に迂回させる役割の管)であったことから、断水による一般世帯への被害はなかった。				
事故原因等	<p>地下埋設物件の事故防止に関する特記仕様書に基づき、既設埋設管については全て埋設管調書を作成し適切に対応していたが、現道拡幅工事の進捗にあわせて工事に支障がない位置に移設(本設)した新しい水道管(今回破損した管)については、その対応がなされていなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい水道管の埋設位置が分かる資料を整理していなかった。 ・下請会社に地下埋設物件がある事を作業指示時に伝えていなかった。 				
改善策等	<ol style="list-style-type: none"> ①新設水道管も含めた、埋設物危険箇所マップを作成し、現場事務所・安全掲示板作業箇所に掲示し、全作業員まで地下埋設に対する危険箇所の周知を行う。 ②現場では、今後工事を行う区間で、工事に支障がない埋設物件についてもマーキングを行う。 ③現地作業員(元請・下請)に対する再教育の徹底。 ④地下埋設物チェックシートを作成し、作業を行う。 ⑤安全担当者を現地に常駐(増員)させ巡視する。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・特記仕様書記載内容の徹底。 ・危険箇所の周知など、教育の徹底。 				

事故状況図



事故種類	労働災害	発生日時	平成21年10月26日 10時30分		
事故区分	労働災害	年齢性別	58歳 男性	職種	コンクリート圧送工
被災程度(全治)	約28日間の加療を要する見込み				
事故概要	生コン打設中に雨が降り出したので、工場を出たコンクリートを打設するためにポンプ車ホッパー部と生コン車シュート部にブルーシートでカバーを掛けようとしたところ、ホッパー部ステージから足を滑らせ転落。転落した際、コンクリート圧送配管に胸を強打し被災。				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ・ホッパー部ステージの狭い箇所での作業を行った。 ・雨が降った事でホッパー部ステージ上が滑りやすい状態であった。 ・雨天時の養生設備がなかった。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・作業は必ず2名以上で行い、ホッパー部両サイドステージの広い箇所で行う。 ・ホッパー部の狭い箇所は作業禁止とする。 ・雨が降った場合は滑り止め(麻布等)を敷く。 ・雨天が考えられる場合は、生コン車を1台にして養生として組立 TENT を設置する。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・作業は必ず2名以上で行い、ホッパー部両サイドステージの広い箇所で行う。 ・ホッパー部の狭い箇所は作業禁止とする。 ・雨が降った場合は滑り止め(麻布等)を敷く。 				

事故状況図

